

# いつまでもあると思うな妻と飯

## その 2 『誰も避けて通れない人生の最期』

### 1. 医療制度

- ① 高齢者と健康診断  
(人間ドック、公的制度の利用)
- ② 現下の医療・医薬制度の問題点 (政官学と業界の癒着)
- ③ 緩和ケア病棟、自宅療養  
(積極的治療はしない)

### 2. 葬儀から納骨

- ① 菩提寺への連絡、戒名の資料提出  
(日程など寺の都合を問い合わせる)
- ② 葬儀社との打ち合わせ (参列者の人数、祭壇)
- ③ 通夜・葬儀 (直葬、家族、一般葬、密葬の選択)
- ④ 火葬場 (葬儀社が手配)
- ⑤ 納骨式 (墓地の石塔へ印字を準備)
- ⑥ 境内墓地、永代供養、霊園 (公営・民営) の選択

### 3. 見舞客、参列者

- ① 住所録整理・引継
- ② 故人の交友関係 (学友、趣味仲間、近隣者)

### 4. 金銭問題

- ① 銀行、証券、保険などの金融機関
- ② 遺産相続の課題 (相続人と被相続人の関係)
- ④ 年金受給者死亡届
- ⑤ 死亡による相続人の受給額変化 (詳細は別途説明)

### 5. 片付けと処分

- ① 衣類、家財道具、
- ② 自動車、ゴルフ会員権
- ③ 趣味の道具、書籍
- ④ 不動産 (土地、家屋) 最大の課題 (事前調査を要す)

以上

## いつまでもあると思うな妻と飯

### その 1 『亡妻の最期とその後』

<はじめに>

平成 29 年 4 月 22 日、亡妻の死去からすでに 3 ヶ月経過しました。その間葬儀、納骨、死亡後の諸手続きなどに忙殺されました。一年前にはこのような問題には全く無関心でした。しかし今では人生最大の課題と考えるようになりました。

<医学の進歩と延命治療>

今回強く感じたことは医療技術の進歩に対し人間の考えが対応できなくなっていることだと思います。すでに一部の皆様にはお伝えしておりますが亡妻は 75 歳通過時点で、これでもう新たな病根が発見されても手術とか、過剰な治療を受けたくないという周囲に漏らし始めました。

具体的な表現をこの場では差し控えますが、無理矢理に延命を図ろうとする同年代の高齢者の態度をかねてから批判的に見ていました。つまり長期の療養では自分自身が我慢を強いられます。しかも周囲には様々な負担を転嫁します。そして医療費を支払なければなりません。現在の制度ではその多くの部分を保険と国が負担しています。

<人間の意識が変わらない現実>

今般その自己見解を担当医に具体例を挙げる一方、自分は尊厳死協会の会員であることも伝えました。その医師はしばらくじっと聞いていて「よくわかりました。医療技術の進歩の中で人間意識が変わらないからです」と即座に申し出を受け入れてくれました。そして緩和ケア病棟への入院を提案され、それに従いましたのでガン末期の激痛は回避できました。

亡妻の考え方はまだ世間の共通認識とはなっていませんし、広い支援を得られるものではありません。それどころか強い反対意見が出る可能性もあります。しかし早晚取り入れて行かないと日本の社会の崩壊につながってゆくと思われまます。このところマスメディアの間ではようやくこれらの問題が俎上にあがってきています。これも具体例を挙げると差しさわりがあるので敢えて回避しますが、個別の医薬品、病理を専門家が分析し、国会やその他の公共の場で議論する段階にいち早く到達しなければなりません。それについても医薬業界と政官学界との癒着の変革は喫緊の課題だと思います。しかし、その進展には時間を要することでしょう。

### <一歩進んでいる諸外国>

尊厳死（英語：dignified death，または death with dignity）と安楽死（英語：euthanasia）について言及しようと思います。

諸外国の例を挙げればヨーロッパ、アメリカ（州により異なる）の一部では尊厳死に加え安楽死がすでに公認されています。特定の病理については年齢を勘案、保険の対象とせず自己負担部分が増える制度が確立しています。トランプ大統領が見直を提案して国民から不評を買っているオバマケアの見直しも国家の財政問題として取り上げているのですから同大統領にはそれなりの理由があるのです。

参考：既導入国：スイス オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、アメリカ（オレゴン州、ワシントン州、モンタナ州、バーモント州、ニューメキシコ州、カリフォルニア州）、カナダ

### <一人暮らしで見えてきたもの>

入院から起算して、実質一人暮らしとなつてからすでに5ヶ月経過しました。一人暮らしでは二人暮らしの時には気がつかなかったことが随所に出てきます。家事全般を実際にやってみるとこれまで気がつかなかったことがあり、失敗の連続ですが「失敗は成功のもと」だとその都度反省に努めています。例を挙げるなら調味料、洗剤がすでにあるにもかかわらずまた買い込んで、収納しようとして初めて気がつくようなことはあります。3か月前購入の野菜が冷蔵庫の奥から突然現れたり、鍋、釜、刃物その他台所の道具で何に使うのかわからないモノもあります。それでも自分で買い物、炊事、洗濯、ゴミ出しなどは是非できるよう奥方からよく指導を受けておくよう提案します。

皆様個々人で独自の死生観を持っていただくよい機会ですから今後も折に触れ話題にしたいと考えます。これから独居老人の生き方を模索しながらそれを実践してゆく所存です。一人暮らしは不便が多く、そして孤独に耐えなければなりません、そして今後の最大の課題は、家屋を含め身の回り品をどのように処分するかということだと思えます。

### <おわりに>

4月22日が死去の日ですので22日を「フウフ（夫婦）の日」と決めてこれから毎月墓参りの日にしようかと考えています。「ありがとうございました。」